

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4370300727
法人名	社会福祉法人 仁和会
事業所名	グループホーム 聖心園
訪問調査日	平成 20 年 2 月 28 日
評価確定日	平成 20 年 4 月 11 日
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年3月31日

【評価実施概要】

事業所番号	4370300727		
法人名	社会福祉法人 仁和会		
事業所名	グループホーム 聖心園		
所在地	熊本県人吉市寺町9番地5 (電話) 0966-22-7807		
評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構		
所在地	熊本市南熊本3-13-12-205		
訪問調査日	平成20年2月28日	評価確定日	平成20年4月11日

【情報提供票より】(20年2月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16 年 3 月 25 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	7 人	常勤	7 人, 非常勤 人, 常勤換算 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋造り
	1 階建て

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	18,000 円	その他の経費(月額)	400 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(2月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	1 名	要介護2	3 名		
要介護3	2 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	名		
年齢	平均 85.1 歳	最低	77 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	岡医院 御手洗歯科医院 介護老人保健施設愛生
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

社会福祉法人仁和会の一つであるグループホームは併設施設や母体医院が近くに点在し、多くの社会資源にも囲まれた立地条件を活かした外出や母体の文化祭等に参加し地域生活が拡充されている。バリアフリー化の徹底した室内となっているが、高齢化・重度化が進み、より安全性を図るため改善策を講じ、ゆっくりとした生活の中に入居者の弾かれるエレクトーンが他の入居者へも活力を与えている。職員は地域密着型となり追加されたホーム独自の理念や目標を掲げ、その実現へ向け真摯に取り組まれており、入居者の穏やかな日常生活を自信を持って支援している。法人全体の委員会、研修会等研修体制が確立し、法人のバックアップ体制も構築しており、職員の細やかな気配り、傾聴や寄り添いの姿に“優しい介護”に取り組まれていることが窺われ、家族との信頼関係へと表れている。今後も地域の一人として、運営推進会議を通じ地域住民との交流促進を図る意向であり、地域福祉の拠点として発展していくことが期待できる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>改善点を明確にし、法人全体で改善策を検討し取組まれ、入居者の居場所の整備や家族との語らいの場所として居室にソファを配置する等が具体的な改善を図っている。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価項目は職員の指針として活用され、自己ケアを振り返るツールとして全員で取組まれている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>2ヵ月毎に開催される運営推進会議は入居者・家族代表・行政の他法人関係者等の出席のもと、入居者の暮らしぶりや活動報告、行事予定等が報告されている。自主防災として緊急避難協力隊を募る等の意見により地域で自主防災協力隊の立上げが検討されている。今後は運営推進会議の増員や地域との関わりとして具体的な活動をする意向である。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、職員は家族が気軽に意見を言えるような雰囲気や職員から声かけをし行う等家族とのコミュニケーションを図ることを目標としており、家族との信頼関係を築いている。玄関の意見箱の設置や公的的外部機関を掲示し、家族の意見を貴重と受止め、ホーム運営に反映させている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>幼稚園や小学校の音楽祭、地域の行事や母体法人の文化祭等積極的に参加している。近隣と挨拶を交わしたり、差し入れ等もあり、近隣住民との関係は深まっている。更にホーム独自で地域の中に入り、地域生活の拡充に向け、運営推進会議での情報収集や子ども見守り隊に協力する意向である。</p>

2. 評価結果（詳細）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念を基本とし、ホーム理念に地域密着型となり“地域家族のかかわりの中で生き生きとした暮らし”の他、助け合いの暮らしの支援等を追加している。入居者・家族・住民全てが皆同じであると捉え、普通の生活を支えたいと理念の具現化を図っている		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム理念のほか、援助目標や努力目標を掲げ、職員の共有化を図り、理念の実践に真摯に取り組まれている。入居者一人ひとりを大切にするとともに、ホームでできることを地域社会や家族へも伝えていく役割があると啓発活動を行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	幼稚園や小学校の音楽祭、地域の行事や母体法人の文化祭等積極的に参加している。近隣と挨拶を交わしたり、差し入れ等もあり近隣住民との関係は深まっている。更にホーム独自で地域の中に入り、地域生活の拡充に向け、運営推進会議での情報収集や子ども見守り隊に協力する意向である。	○	自治会・地域活動に参加し、地域住民との交流促進に期待したい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目は職員の指針として活用され、自己ケアを振り返るツールとして全員で取組まれている。改善点を明確にし、法人全体で改善策を検討し取組まれ、入居者の居場所の整備や家族との語らいの場所として居室にソファを配置する等具体的な改善に取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に開催される運営推進会議は入居者・家族代表・行政の他、法人関係者等の出席のもと、入居者の暮らしぶりや活動報告、行事予定等が報告されている。自主防災として緊急避難協力隊を募る等の意見により地域で自主防災協力隊の立上げが検討されている。今後は運営推進会議の増員や地域との関わりとして具体的な活動をする意向である。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への参加や介護認定申請時等の交流により関わりが深くなり、地域とのつながりの強化に向けた相談等を行っている。	○	更に今後評価結果等提出時等を通じて市担当者との交流を深めたり、ホームで出来ることなど発信し関係強化に期待したい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	法人の広報誌“みこころ”やホーム便り“みこころ”に暮らしぶりを掲載し、家族の訪問時の説明や電話による随時連絡により不安解消に努めている。遠方の家族には手紙と日常の写真と同封している。預かり金は個人出納帳に領収証を添付し、訪問時サインによる確認が行われている。	○	職員の異動時にはホーム便りに掲載し送付したり、担当制となっていることから、職員が電話などで家族との信頼関係の構築につなげるよう検討いただきたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訪問時に意見や要望を聞く機会と捉え、職員は家族が気軽に意見を言えるような雰囲気や職員から声かけを行う等家族とのコミュニケーションを図ることを目標としており、家族との信頼関係を築いている。玄関の意見箱や公的外部機関を掲示し、家族の意見を貴重と受止め、ホーム運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	併設小規模多機能のオープンに伴い同法人内の異動が行われている。法人内での研修により教育や引継ぎ期間を1ヶ月程度設け、入居者へのダメージを防ぐ配慮をしている。管理者も職員とコミュニケーションを図り、メンタルケアや職員の息抜き時間も考えながらケアに取り組むなど離職防止に努めている。		
5. 人材の育成と支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体で行われる研修委員会の構成メンバーとしての参加や外部研修には職員のレベルに応じ計画を立て参加している。管理者は資格取得に向け情報提供したり、受講しやすいようにシフト調整を行い、個別にアドバイスをする等推奨している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に加入し同業者と情報交換を行ったり、勉強会への参加により質の向上に努めている。他のグループホームとの相互訪問や見学等にも応じるなど連携して取り組んでいる。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	安心した入居となるように入居前の段階から自宅を訪問し本人や家族との信頼関係を築くよう努め、ホームの見学により雰囲気を体験してもらっている。入居後も家族からアセスメントにより生活歴等を把握し、以前のケアマネージャ、医師、看護師からの情報を得、家族の協力のもと徐々に馴染めるよう支援して。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごし喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	24時間生活変化シートによりできる事、できない事を把握し、常にモニタリングし、日常生活から得意分野を引き出し、生きがい作りや出番を作り自信へと繋げている。職員は支援する側、される側の意識を持たずケアにあたっており、お互いに「ありがとう」の感謝の言葉をかけあいながらの生活ぶりであった。入居者も職員の話聞き、意見を出されるなど、お互いの支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメントで得た家族の情報の他、日常的な関わりから希望や意向を聞き、家族からも情報を得ながら、カンファレンスの中で本人の思いが中心になるよう検討している。常に優しい介護に取り組んでおり、本人本位になるよう支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を採用した介護計画は、担当職員を中心にアセスメントし、月1回のケアカンファレンスにて検討され、本人・家族の意向に沿って立案されている。ミーティングノートには職員の気付きが詳細に記入されており、介護計画に反映され、個別的なプランとなっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヵ月毎のほか、個々の状態や入退院後ケアカンファレンスを行い、本人や家族の意向も勘案し、現状に即した新たな計画を作成している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設のサービスの利用(生鮮ものの温熱処理・トロミ食等への対応や機械浴の支援等)や職員の往診対応・外出支援等柔軟に対応している。母体施設の文化祭等の行事の参加による交流等楽しみごと支援も採り入れている。医療との連携や日々の健康管理により早期発見につとめ、医療処置を受けながらホームでの生活が継続されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人理事長の病院が近くにあり、かかりつけ医となったり、長年のかかりつけ医を継続して受診されている。職員が受診に同行し情報の共有化を図る等協力医療機関との連携を図りながら適切な医療が受けられるよう支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化の想定のもと、日頃から医療機関の情報等家族との共有に努め、重度化した場合の終末期のあり方を家族に説明し同意を得ている。	○	高齢化・重度化が進んでおり、入居者の状態変化や家族の意識の変化等も考慮し、繰り返し家族と話し合い、長く住み続けられるよう支援いただきたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は穏やかな声かけや手引き等入居者の尊厳を第一に優しい介護がなされている。記録物は事務室で保管し、漏洩に十分な配慮と個人情報基本方針を掲示し、母体施設で行われる接遇マナー委員会で研修会を行い、プライバシー確保の徹底に力を入れている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の体調に応じて、個別に入居者のペースに合わせた生活支援である。その日の気分や体調により食事を個別に対応したり、起床就寝時間等希望にそって支援している。訪問当日も遅めの朝食を職員の優しい声かけ見守りの中、ゆっくりと自分のペースで食べられる姿も合った。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者のできる力を生かし、盛り付けや配膳、テーブル拭き等職員の見守りのなか行われている。職員もケアの必要な入居者の横で、話題作りをする等楽しい食事となるように支援している。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望に応じ、朝からの入浴や午後入浴となっている。清拭やシャワー浴も取り入れ、入浴剤の使用により気持ちよい入浴を支援している。混乱のある入居者は、情報の共有化により声かけタイミングを掴み本人の気持ちに浴よう支援している。入浴チェック表からも清潔保持に努められていることが窺われる。車椅子の入居者には同法人の機械浴での支援も行っている。	○	家族や本人の意向があれば、夕食後の入浴も検討していく意向である。家族や本人の意向を再調査され、職員体制が可能ならば、生活習慣への対応もお願いしたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや掃除、歌の伴奏、料理への参加等自然に得意分野が発揮出来るように支援している。地域行事へ参加したり、ホームでの行事等気晴らしの支援とし、母体施設の“ふれあい文化祭”では、入居者の演奏による合唱が行われ、自信と満足感となって表れ、家族も昔とった杵柄が失われていなかたことに感激されていたとのことであり、日常生活でも全入居者への回想法として活かされている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は食材の購入へ同行したり、近隣への散歩等外出の機会を提供している。神社への参詣や駅へのドライブで気分転換を図り、季節に応じた外出等もあり、楽しみごとの一つとなっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員全員が鍵をかけないケアの意義を理解しており、玄関や職員の出入口や裏玄関など至るところが開放されている。ホームへの門は道路に面しており、安全面に配慮しフェンスは閉じられているが、入居者の外へ出たいという思いを尊重し、寄り添いや見守りで一緒に行動を共にする等束縛の無い支援となっている。玄関にはセンサー、事務室には安全確認の為のモニターが設置されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	毎月1回夜間を想定した自主避難訓練を行うことで職員の意識向上を図っている。又、オール電化であり、緊急連絡網も作成され、避難場所も確保されているが、入居者の二時的見守りが必要である事が認識されている。	○	自主避難訓練は毎月継続して行われている。今後消防や近隣住民との協力強化に取り組む意向も有る。今後、ぜひ隣近所に声かけされ、時には消防署立会いのもとの訓練をされることが期待される。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士による献立をベースにしている。食事量は記録として残すことで栄養管理が行われ、水分補給として3食に汁ものを付け、10時・3時、入浴後や夜間等適時コーヒーや牛乳等で支援している。入居者の既往歴等からカリウム減ジュースの用意もしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は天井も高く、自然な明るさで清潔感に溢れている。広いダイニングリビングには段上がりの畳の間を設け、冬場はコタツを用意している。廊下には入居者の作品が飾られ、入居者の居場所の確保が必要との指摘からソファを配置し、寛ぎの空間を作っている。キッチンからの音や入居者が弾くキーボードの音が他の入居者への活力も与えている。ホーム周囲の梅の花が室内のいたるところから眺められ、常に季節感を感じる事も可能である。畳のコーナーは段差には事故対策としてカラーテープで目印がされているが、転倒があり、見直されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除の行届いた居室は、ホーム側が用意したベッド・クローゼットが備え付けられている。使い慣れた箆箆やテレビ等が持ち込まれ、写真やカレンダー、扇子等が飾られ、ベッドの配置等家族や本人と相談しながらレイアウトされている。ご夫婦での入居者は隣同士の部屋を1部屋はベッドルームとして、片方をリビングとしてテレビや電気ポット等が持ち込まれ、趣味の木彫りを飾り、テーブルにお茶セットと自宅での生活を継続されているようである。他の居室にも家族との語らいの場としてソファが用意され、本人・家族共々居心地良く過ごす工夫をしている		

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム聖心園
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	熊本県人吉市
記入者名 (管理者)	真弓 和子
記入日	平成 20 年 2 月 1 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	○	地域の中で暮らすことを大切にしていることを、利用者、家族、地域の人、が実感できるように、一緒に行動する機会を持つ。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	○	
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	○	運営推進会議を活用しながら、地域の活動、情報収集に努め地域との交流の場を広げる。子供見守り隊などに参加する機会を持つ。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6 ○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	いつでも施設見学を受け入れ、相談事を通じて認知症の理解や具体的ケアを話している。各団体の施設見学や実習生の受け入れも行っている。	○	地域高齢者の方に、会議室を利用させていただく事で認知症の理解や、相談を受ける機会を増やす。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7 ○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	経験の浅いスタッフにとって評価内容は認知症ケアの指針としてわかりやすい。各自自己ケアの見直しをかねて取り組んでいる。	○	評価の意義を理解し法人全体で改善策を考え取り組んでいる。
8 ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月毎に活動報告や施設の状況を話している。、情報、アドバイスを受けており、サービスの向上に活かしている。	○	スタッフには作成した会議録を回覧し、会議の様子も話している。更に情報、アドバイスを得ながら、具体的な活動(地域との関わり)を広めたい
9 ○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者は本体施設とのかかわりも多く、運営推進会議の構成員でもあり、実情や取り組みを知ってもらっている。		
10 ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域権利擁護事業の利用者を通じて、成年後見制度を理解している。	○	グループホーム職員としてスタッフで権利擁護に関する知識を持てるように、学びの場を持つ。
11 ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	母体施設の全体研修で学び、虐待防止、抑制防止委員のスタッフを中心に活動している。事務所内にも掲示し徹底できている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の内容は、契約時に説明を行い、家族の不安、疑問点を聞いている。医療連携体制、重度化、看取りについての対応は同意を得ている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の場で利用者が意見を言える雰囲気をつくり、スタッフ側からも、折に触れ、希望意見を聞いている。玄関の意見箱に投函してもよい事を伝えている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	来園時や電話で日頃の様子を伝えている。定期的に発刊される広報「みこころ」に生活の様子を掲載している。遠方に居られる家族には郵便物と共に写真や手紙で報告している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の来園時に気軽に意見を言えるような雰囲気を大切にしているスタッフより意見を求め、貴重なものとして受け止めるようにしている。玄関の意見箱を置き、投函されるように伝えている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する前向きな職員の意見や提案は大切に、会議の場などで皆で考え実行につながるよう取り組んでいる。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	起床、就寝、食事時に必要な人数をシフト上に組み込んでいるが 状況の変化による要望は、母体施設の協力を得ながら、柔軟な対応をしている。	○ 法人全体として、柔軟な対応にむけて勤務調整している。緊急時の応援体制がある。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	3名の人事異動があったがスタッフ交代時は新しいスタッフが馴染みの関係が出来るように引継ぎの期間を一月設けた。	○ 異動や新しいスタッフの採用時は早期に認知症についての基礎知識やケアのあり方を学ぶ機会を作る。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本体施設での園内研修にメンバーとして参加、法人としての外部研修も段階に応じて計画されている。グループホーム連絡会主催の研修も積極的に参加している。資格取得についても支援している。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会の勉強会や相互訪問、交流会の機会を持って、質の向上に努めている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	健康状態や疲れ、ストレスなど、気軽に話せるように日常から個別に会話の機会を持つなど、気を配っている。仲間意識を持てるように職員旅行で交流、親睦を図っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	努力、実績、勤務状態を把握しており、資格取得に向けて、情報提供や、勤務調整などを行い支援している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	各事業所よりの情報や家族よりの情報を得ながら、まず本人の表情や行動より、不安や困り事を察知し、受け止め、安心して利用されるように、信頼関係を築く努力をしている。	○	環境が変わる事の不安を受け止める。状況を見ながら、自宅に同伴することもある。本人の意に沿い困らないように支援していく事で信頼関係を作っている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用に至るまでの経緯の中で苦労や、努力、家族としての気持ちを受け止める。情報交換をしようことで安心信頼につなげている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の相談を受け止め、他の事業所からの情報を得ながら、必要な支援を見極めている。他のサービス利用も紹介している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	申請時に出来る限り本人に来てもらう。入所前に訪問し、暮らしの様子を伺う。入所後は他職種、家族からの情報を元に環境を整え本人の意向に沿いながら馴染んでいただいている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意な事を引き出し、教えてもらう場面がある。支援する側、される側の意識無く、出来るところで、助け合いながら暮らす姿勢がある。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族より情報を得れるように、又スタッフよりの情報を提供し、協力し合いながら、本人を支えている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	外出、外泊支援、行事への参加応援など、家族の協力を得ることで、本人、家族の関係が深まっている。遠方に居られる方には、電話の取次ぎ時に、表情や気持ちを代弁している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院へ出かけられ、お茶の接待を受けたり談話されて帰られている。なじみの場所へドライブで出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	談話の中で、生い立ちや、思いを代弁し孤立することが無いようにしている。、人ひとりの活躍できる場面を見つけ少しずつ役割を分担している。混乱は早く察知し、調整するようにしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後に継続的な関わりが必要な方は、居られないが、作物を持参される家族の方や、文化行事であったとき声をかけあっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お茶や談話の中で、希望、意向を尋ねたり、カンファレンスで本人の思いをテーマに話し合っている。家族からの情報も得ながら思い、意向の把握をしている。		
34 ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	各関係者からの情報を得て把握に努めている。家族の方には、これまでの暮らし方のシートに記載をお願いしたり、面会時に尋ね、把握に努めている。		
35 ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの暮らしの現状を、スタッフは常に情報交換しあい、総合的に把握しその人らしい暮らしの支援に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36 ○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画は、担当スタッフを中心にアセスメントし、カンファレンスでは本人の思いがどこにあるか皆で考え把握に努め、立案している。 家族の思い、意見も必ず伺い、立案時に反映されるように、している。		
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月一回のケア会議で、一人ひとりの状態変化やケアの見直しをしている。状態変化時は新たな計画を作成している。入退院で状態変化がある場合は、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に日中、夜間の暮らしの様子や、気づきを記入し、情報を共有している。ミーティングノートにも記載し全体カンファレンスでよりよい暮らしにむけての工夫や計画の見直しはしている。	○	記録様式の検討を含め、読みやすくポイントを絞った経過記録の書き方を学ぶ
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	母体施設の協力を得ながら、本人、家族の状況におうじて柔軟に要望に答えている。通院支援もしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校の音楽祭や、彼岸参りなど、地域との交流の際に、協力を得ながら参加している。	○	
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	母体施設のサービスを利用して、本人の意向や必要性に応じて入浴支援、配食が出来る。理容に関しても訪問してもらえる。		
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	権利擁護を受けて居られる方があり、情報を交換している。	○	地域包括センターをとおして、地域とのつながりを深める。
43 ○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	長年のかかりつけ医の往診がある。通院検査時は同行している。検査結果他の情報を得られる関係にある。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>重度化や終末期に向けたケアの取り組み事例を参考にしながら、チームケアや介護技術の向上に向けて学習の機会を持つ</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を第一にし、さりげない言葉かけや対応を心がけている。個人情報は流出しないように、保管している。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	意思を大切にし、わかる力を確かめながら、思いに沿った暮らしの支援をしている。食事やおやつの時間に困りごとや、希望は無いかな聞いている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの暮らしを大切に、就寝時間や起床時間の制限は無い、本人のペースを大切にしている。晩酌を楽しまれる方もある。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの美容室でお茶をいただいてこられる方もある。外出時はスタッフと服を選び、身だしなみを整えてもらっている。、洗顔時は鏡を見てもらっている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食材切り、盛り付け、配膳、テーブル拭きなど、それぞれが少しずつ出来る力を生かし、役割をしながら、食事を楽しんでいる。食事形態、彩り、席、など配慮している。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	毎日のスーパーでの買い物時に好みを聞き購入している。牛乳が苦手な方や焼酎を飲みたい方など、状況に合わせて支援している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェックを適宜し、見直す事でパターンをつかみ、トイレでの排泄支援につなげている。排泄サインを見逃さずさりげなくトイレ誘導している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時の混乱のある方に対して情報を共有しながら時間声かけのタイミングをつかみ本人の気持ちに沿うように支援している。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの日中の様子を把握しながら、就寝前の足浴、晩酌、添い寝の工夫をしている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみ、掃除、歌の伴奏、食事づくり、をお願いすると、役割として、自然とされている。イライラされているときは、買い物に誘ったり、おやつ時に談話の中で一人ひとりの気持ちが、表出できるように場面づくりをしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持って出かけられるが、ほしいものが無く支払いの機会は少ない。預かり金の中から、パーマ代を支払いされるように手渡ししている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の食材購入に外出されたり、神社、駅などのドライブに誘っている。車椅子を利用して、近隣へ散歩へ出かけている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	家族、本人より行きたい希望は聞かれないが、お弁当を作った花見、バスはイク、イチゴ狩り、音楽会、運動会へ出かけている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	プレゼントが贈られたときはこちらから必ず電話して、声を聞きあってもらっている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	訪問時間に定めなく、ゆっくり過ごしてもらえるようにスペースを確保し配茶をしている スタッフからの挨拶を心がけ訪問時の気づきや困りごとなど話していただけるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	母体施設の全体研修に参加し学べる。GH内にも身体拘束廃止委員をおき、具体的な拘束しないケアの実践や認識を深めている。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関からの出入りは鍵をかけず、自由に出入りされている。ジャバラ外道路に出られるときは、本人の気持ちに沿って、行動を共にしている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	ワンフロアの中で見守りしやすい構造であり、同じ空間で作業、記録をしている。ホールに居られない方は、居室訪問を随時行って所在確認をし様子を把握している。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	物品庫に鍵をかけて保管もするが、花バサミ、裁縫道具など個人のものに関しては、状況を見ながら、出来るだけ自分で、管理されるようにしている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止委員を中心にヒヤリハット記録による共通認識を図っている。事故発生時は、原因、予防対策について検討し事故報告書を作成、家族へ説明、報告をしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変時の対応や蘇生法に関してビデオを見たり、随時日常の場面を通じて、経験者や看護師より、対応方法を学んでいる。	
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	月一回の訓練実施を目標に利用者と共に夜間想定で避難訓練をしている。 災害時は、本体施設や近くの医院の協力がある。	○ 災害時の備えをはじめとして、安全な場所への避難までのマニュアルを皆が情報共有できるように明記する。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	一人ひとりの生活の様子を伝える中で、自由な暮らしでの起こりうるリスクについても話し、理解を求めている。	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	一人ひとりの体調変化を個人記録に記入、各スタッフは口頭でも伝えあい、変化を捉え看護師へ報告し、早期対応を心がけている。	
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の内容は個人ファイルに綴じていつでも見れる。服薬は本人に手渡し、内服確認をしている。 看護師は、利用者、スタッフへ服薬の目的を適時伝えている。情報提供しあいながら、症状の変化に対応している。	
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	排泄委員会を中心に本体委員会の情報を得て対応している。 食生活に繊維の多いものを提供し、水分摂取を増やし、食後の排便の誘い、運動などで、出来るだけ薬に頼らない工夫をしている。	
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨き、義歯洗浄、の声掛けし力に応じて支援している。就寝時は洗浄剤を使って保管している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士による献立をベースにしている。三食共に汁を添えている。一人ひとりの摂取状態を把握し、食事の形態も変えている。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	母体施設の感染対策委員会より情報を得ている。マニュアルがあり、インフルエンザは、利用者、スタッフ共に予防注射を接種した。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理用品、食器は食器乾燥機で、まな板、手拭、台拭きはハイクロソフト水で消毒、食材は毎日買出し冷蔵庫内は常時入れ替わり、整理されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物周囲に、プランター置いたり花を植えて、玄関には観葉植物を置いて、自然で穏やかな雰囲気になっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の作品を飾りに取り入れたり、手の届くところに歌集や、楽器があり、いつでも、自由に使える。ホールでは洗濯たみ、食事づくり作業とワンホールで出来生活観が持てるスペースになっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでは畳、ソファ、テーブルとそれぞれ自分の居場所を持っておられる。廊下奥のソファで外の様子を見ながら、過ごされる方も折られる		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人と相談しながら本人の好みを生かしてソファ。使い慣れたたんす、小物、ポット、花など、自分の家としてくつろいでもらう工夫をしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	各居室のエアコンは本人に合わせて温度設定している。ホールでは手足のひえや発汗の様子を見ながら衣類調節を心がけている。起床後ホールに移られた後や掃除時の換気を励行している。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に応じて、見守りの中、シルバーカー、車椅子、歩行器を利用している。身体機能の低下があり浴室などの、住環境の見直しが必要になった。。	○	身体機能の低下があり、安全な住環境の見直しを始めている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	スタッフ間で成功事例を話し合うことでわかる力を確認し、混乱失敗をへらせるように工夫している。トイレのドアを赤テープにしたり、ドアに挿絵をしている。日課表を時計下に張るなど工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ウッドデッキに椅子をおいて通りの様子を眺めたり、布団を干したりされている。ウッドデッキより降りた芝生を物干し場とし、外回りの花植木には、水遣りなどされている。		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

一人ひとりが不安を抱え困らないように、居室や共同のホール、廊下ソファなどで寄り添い談話しています。一人ひとりの暮らしを大切にしながら持てる力を見極め、日常の中で発揮できるように場を作っています。近隣に学校、幼稚園、神社、官公丁、駅、スーパー、郵便局などあり、気軽に出かけられ、文化行事にも参加できます。医療連携体制を含め、母体施設と協働しながら、スタッフは研修を重ね、安心、安全にむけて生活に工夫をしています。